

高等学校における道徳教育

主題名 社会の一員として責任を果たす人間になる

資料名 「亡き母へのトランペット」(出典「明日への扉Ⅱ」千葉県教育委員会)

学校名 千葉県立八千代西高等学校 指導者 丸田 陽子

1 学習指導案

千葉県立八千代西高等学校 1年C組 道徳学習指導案

平成29年11月9日(木) 6校時

(1) 主題名

社会の一員として責任を果たす人間になる。

(2) ねらい

東日本大震災で母を亡くした高校生の、困難を乗り越えて力強く生きていこうとする姿や彼女を支える人々の思いに触れることで、自身の在り方生き方や人を支えていくことについて考え、社会の一員として自らの行動を選択し、よりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育む。

(3) 主題設定の理由

本校では卒業後に就職する生徒が多いことから、社会や集団の一員としての自覚を持ち、自分の役割や責任を自覚するとともに他者に対する敬愛と助け合いの精神を培うことが肝要となる。また、複雑な家庭環境で育っている生徒もいる状況でも、家族・家庭の意義や価値を考えて幸せな家庭を築くために努力することも大切な要件となる。

困難を乗り越え、また、支え合う姿を描いた本教材に接することによって、自分がなすべきことと責任を自覚し、将来の集団生活の中で周囲の人と敬愛と助け合いの精神を育みながらよりよい生活を築く礎を育むことを目途に本主題を設定した。

(4) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (5)	<p>【発問1】 「東日本大震災のとき、あなたが困ったことは何ですか。」 ○数名を指名して答えさせる。</p> <p>【友人の意見を知る】 事前レポートでの意見をまとめたプリントを読み、友人の意見を知る。 〔プリントの項目〕 ①突然保護者が亡くなったら、どんなことを思い出すでしょうか。 ②「佐々木さんがトランペットを手にしたのはなぜですか。」 ③「安藤さんはなぜコンサートへの出演依頼をしたのですか。」</p> <p>・佐々木さんが困難を乗り越えていく姿や周りの方々の支えについて、考えていく授業であることを知らせる。</p>	<ul style="list-style-type: none">・地震が怖かった。・生活に支障が出た。・自分と同じ。・自分と異なる。・母や祖母への思い。・元気な姿を見せたかった。・支援したい。・励ましたい。	<ul style="list-style-type: none">・生徒各自に、東日本大震災のときのことを思い出させる。・まとめプリントを配付する。・朝読書の時間に読んだ教材を用いて、考えていく授業であることを知らせる。・学習意欲を喚起する。・授業の目的を周知する。

<p>展開 (35)</p>	<p>【教材を読む】 7分 ○教師が範読する。</p> <p>【自分の考えをまとめる】 5分 【発問2】 「あなたが、佐々木さんの立場だったら、どのように向き合いますか。」 ○ワークシートに自分の考えを書かせる。</p> <p>【発問3】 「佐々木さんの演奏するトランペットは、聴く人に何を与えてくれますか。」 ○ワークシートに自分の考えを書かせる。</p> <p>【発問4】 「困っている人、辛い思いを抱えている人に対して、あなたはどのようなことができますか。」 ○ワークシートに自分の考えを書かせる。</p> <p>【グループ協議をする】 13分 ○四人班になるよう、机を寄せる。 ○グループ協議をして、意見交換をさせる。 ○発問4について、「人を支えるためにできること」として、班の意見をまとめさせる。</p> <p>【考えを伝え合う】 10分 【発問5】 「人を支えるためにできることとして、各班でどのような意見が出ましたか。」 ○グループ代表数名を指名する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ境遇の人と話す。 ・遺品を大切にする。 ・立ち直れない。 <ul style="list-style-type: none"> ・感動・勇気・励まし ・音楽の持つ力。 ・立ち直るきっかけ。 <ul style="list-style-type: none"> ・励ます。 ・話を聴く。 ・何もできない。 <ul style="list-style-type: none"> ・励ます。 ・話を聴く。 ・寄り添う。 ・解決策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を配付する。 ・静粛な環境を確保する。 <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をし、ワークシートへの記入を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループを作成する。 ・B4の用紙とペンを配付する。 ・代表者を選出する。 ・机間指導をし、どのような意見があるかを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・意見を発表させる。 ・意見を聴く姿勢をつくらせ、発表しやすい環境を整える。
--------------------	--	--	---

<p>終末 (10)</p>	<p>【まとめ】10分 【発問6】 「今の生活で、あるいは今後の人生で、数々の苦労や困難に直面することがあると思います。その時に、皆さんだったらどのようにそれらを克服していきますか。また、困っている人をどのように支えていきますか。どのような大人になりたいと考えていますか。」 ○授業を通じて、感じたことや考えたことをワークシートに記入させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、困難に対しどのように乗り越えていくか考えさせる。さらに、困難を抱えている人をどのように支えていくか考えさせる。 ・ワークシートの回収
--------------------	---	---

(5) 他の教育活動との関連

朝読書の時間を用いて、道徳教材の冊子を読ませる。一年間で全ての教材を読めるよう計画する。

2 事後検討会

(1) 授業記録(抜粋)

T「人を支えるために自分ができることをワークシートに記入しました。それを班の友だちに伝えてください。そして、班としての意見をまとめてください。司会進行の係の人を中心に話し合いを進めてください。記録の人は発表しやすいように、記録をお願いします。」

S(ワークシートをもとに各班で話し合いを進める。記録係がB4の用紙にまとめる。)

T「では、もう一つの点についても話し合ってください。そのように支えることができる人はどのような人ですか。班で話し合ってください。」

S(各班で話し合う。記録係がB4の用紙にまとめる。)

T「それでは、班での話し合いの内容を発表してください。各班の発表係の人をお願いします。」

S〔1班〕「支えるためにできることは、その人を励ましたりなぐさめたりすることです。支えられる人は優しい人だと思います。」

〔2班〕「支えるためにできることは、悩みを聞いてあげたり、自分なりのアドバイスをしたりすることです。支えられる人は、身近な家族や、友だち、信頼できる人だと思います。」

〔3班〕「支えるためにできることは、相談にのることです。支えられる人は、気遣いができる人、心が広い人、信用される人、親身になれる人だと思います。」

〔4班〕「支えるためにできることは、話し相手になる、一人にさせない、寄り添って安らぎ安心を与える、募金をすることです。支えられる人は、周りがよく見える人です。広い心や強い心も必要です。話し上手だと思います。」

〔5班〕「支えるために、自分が笑顔になって元気やパワーをあげたいです。人の痛みが分かる、優しいような、目上の人を支えられる人だと思います。」

〔6班〕「ボランティアに参加したり、募金したりして支えたいです。支えられる人は、人のために行動する人、余裕のある人、支えられたことがある人だと思います。」

〔7班〕「支えるためにできることは、相談に乗ったり、一緒に遊んだりすること。ほっとくことも支えになるかもしれません。支えられる人は、行動力のある、話し上手な人だと思います。」

〔8班〕「支えるためにできることは、黙って隣にいてあげること、好きなものを一緒にたべることです。支えられる人は、身近な家族や、友だち、恋人だと思います。」

[9班]「支えるためにできることは、励まし手伝ってあげることです。支えられる人は、優しく回りをよく見ている人、支えられたことがある人、気遣える人だと思います。」

[10班]「支えるためにできることは、気分転換に誘ったり、近くにおいて話を聞いたりすることです。心の広い、人の気持ちが分かる人が支えになれる人だと思います。」

T「たくさんの意見が出ました。支える方法がいろいろあがりました。自分ができることで困っている人を支えましょう。今、近くに困っている人がいないか周りを見てください。また、自分が困っていたら、「助けて」と周りに頼ってください。この時間の中で考えたこと、感じたこと、どんな大人になりたいかについて、ワークシートにまとめてください。」

(2) 授業の感想

(生徒の感想)

- ・支えるのは難しいと感じた。自分に何ができるのか、考えていきたい。
- ・支える人がいれば立ち直れる。人に頼られるように、支えられるようになりたいと思った。
- ・被災された方のためになりたい。震災のことを忘れてはいけないと思った。
- ・ボランティアに参加したい。
- ・大切な人、親、友人を大事にしていきたい。
- ・支えるとはどういうことか、支えることができる人はどういう人か、考えられて良かった。
- ・人を助けることの大切さがわかった。
- ・皆が同じようなことを考えているのがわかり、話し合えて良かった。
- ・佐々木さんのつらい気持ちや頑張る気持ちがわかって良かった。

(参観者(他校)の感想)

- ・付箋を活用し、友人の意見がわかりやすい。自分の授業にも取り入れたいと感じた。(高校)
- ・B組の導入がうまかった。生徒がグーッと入っていくのが分かった。導入の大切さ、気持ちの向かわせ方を知ることができた。教員の熱意は生徒に伝わる。生徒はテキストをよく読んでいた。朝読書の成果かと思う。共通の指導案ではあるが、担当の先生方の個性をプラスしていく指導が良かった。(高校)
- ・板書の使い方などが配慮されていて良かった。(中学校)
- ・40名一斉指導ではなく、教科指導のように20名ずつの指導にしても良いのでは。(中学校)
- ・発問を精選すべきである。中心発問を考えるのは大変なことであるが、それとそれに繋がる枝問をきちんと考えていく。この過程をしっかりと踏む必要があるのでは。(中学校)
- ・いのちについて考えることができる授業だった。(中学校)
- ・個一グループ一全体と学習形態を工夫し、最終的には自分の思い、考えに帰ることを目指し、KJ法的な取り組みにより、主体的、対話的な場面を作り出していた。(小学校)
- ・どのクラスも教師と生徒の人間関係が良く、聞く・聴く・訊くの高まりがみられた。(小学校)
- ・教師と生徒、生徒同士の仲が良い。男女の仲も良く、グループで良く話し合いをしていた。拍手の聞こえる、お互いに褒め合える関係を作っている点が良かった。(小学校)
- ・生徒は客観的な題材よりも、具体的に考えられる課題の方が良いのでは。グループは、男女同数の組み合わせの方が良い。映像は武器になるので、もっと使用した方が良い。プリント等も良く書かれているので、掲示した方が良いのではないかと。(特別支援学校)

- ・一年間を通してたくさんの講演を取り入れている点に興味を持った。持ち帰って、生徒への今後の指導に活かしていきたい。(特別支援学校)

(指導助言者の感想)

- ・教員と生徒の信頼関係の良さが伝わってきた。学年の先生方が一丸となって、チームワーク良く指導にあたっているのがうかがえた。
- ・『明日への扉Ⅱ』の実物を使用している点、臨機応変に指導方法を工夫している点が良かった。
- ・グループワークを効果的に進めるには、板書での指示、時間を区切ること、机間指導のフォローが必要である。
- ・「どう生きていくか自分で考えるのが道徳」という校長先生の話が印象に残った。次期学習指導要領でも道徳は大きく関わっていく。これからも、主体的・対話的な学びを実行して行ってほしい。

3 本事例の活用に関する留意点

(1) グループワークについて

- ・グループ内で、司会進行・記録・発表の役割分担をし、話し合いが活発になるよう指導した。
- ・ワークシートに自分の意見を記入した上で、グループの形態に机を寄せ、話し合いを始めさせた。他人の意見に引きずられずに、自分の意見を伝えることができた。

(2) 読み物教材の活用について

- ・朝読書の時間を用いて、道徳の読みもの教材『「明日への扉Ⅱ」』を生徒に読ませた。朝読書の時間で読む際にもワークシートを用意し、内容を確認しながら読んだ。漫然と読むことへの防止となった。

